改　表9b　受信地球局と双方向に共用している周波数帯での送信地球局に対する調整距離の決定に必要なパラメータ

送信地球局が運用する宇宙業務種別		固定衛星			固定衛星			固定衛星	固定衛星	固定衛星(3)	固定衛星(4)	地球探査衛星、宇宙研究	
周波数帯（GHz）		10.7-11.7			12.5-12.75			17.3-17.8	17.7-18.4	19.3-19.6	19.3-19.6	40.0-40.5	
受信地球局が運用する宇宙業務種別		固定衛星			固定衛星			放送衛星	固定衛星、気象衛星	固定衛星(3)	固定衛星(4)	固定衛星、移動衛星	
軌道(7)		GSO		非GSO	GSO		非GSO		GSO	非GSO	GSO	GSO	非GSO
受信地球局における変調(1)		A	N	N	A	N			N	N			
受信地球局干渉パラメータ及び基準	p_0(%)	0.03	0.003		0.03	0.003			0.003	0.01	0.003	0.003	
	n	2	2		2	2			2	1	2	2	
	p(%)	0.015	0.0015		0.015	0.0015			0.0015	0.01	0.0015	0.0015	
	N_L（dB）	1	1		1	1			1	0	1	1	
	M_S（dB）	7	4		7	4			6	5	6	6	
	W（dB）	4	0		4	0			0	0	0	0	
受信地球局パラメータ	G_m（dBi）(2)			51.9			31.2		58.6	53.2	49.5	50.8	54.4
	G_T(5)	(9)	(9)	10	(9)	(9)	11(11)		(9)	10	(10)	(9)	7(12)
	ε_{min}(6)	5°	5°	6°	5°	5°	10°		5°	5°	10°	10°	10°
	T_e（K）(8)	150	150		150	150			300	300	300	300	
参照帯域幅	B（Hz）	10^6	10^6		10^6	10^6			10^6	10^6			
許容干渉電力	B内のP_T（p）(dBW)	-144	-144	-144	-144	-144	-144		-138	-141			

表9bの注記:

(1) A: アナログ変調、N: デジタル変調

(2) 受信地球局アンテナの軸上利得

(3) 移動衛星業務の非静止衛星システムのフィーダリンク

(4) 静止衛星システム

(5) 受信地球局に対する水平面アンテナ利得（本付録本文中の第3節を参照）

(6) 度で表された運用最小仰角（非GSO又はGSO）

(7) 受信地球局が運用する宇宙業務の軌道（GSO又は非GSO）

(8) 受信システムの受信アンテナ端子における熱雑音温度（晴天時）。値がない場合、本附属書の第2.1小節を参照。

(9) 水平面アンテナ利得は第5附属書の手順を使って計算する。G_mの値の指定がない場合、42dBiの値が使われる。

(10) 水平面アンテナ利得は第5附属書の手順を使って計算する。附属書第3節に示されたパターンの代わりに以下のアンテナパターンを用いてもよい。

$1 \le \phi < 48$の場合$G = 32 - 25 \log \phi$、及び$48 \le \phi < 180$の場合$G = -10$（記号の定義については第3附属書を参照）。

(11) 非静止水平面アンテナ利得は、$G = 36 - 25 \log (\phi) > -6$の場合、$G_e = G_{max}$（本付録本文中の第2.2小節を参照）である（記号の定義については第3附属書を参照）。

(12) 非静止水平面アンテナ利得は、$G = 32 - 25 \log (\phi) > -10$の場合、$G_e = G_{max}$（本付録本文中の第2.2小節を参照）である（記号の定義については第3附属書を参照）。